



特集

地区活動のあり方を 新たな視点で

「保健師の中核的業務」である地区活動の弱体化が懸念されています。行財政改革や市町村合併が進展するなか、保健師の担当領域が多様化し、多くの分野で保健師の活躍に期待がかかる一方、採用控えで保健師が多くの業務に追われているからです。しかし、さまざまな健康課題、さまざまな専門職が地域に存在する今日、その地域を丸ごとフィールドとする地区活動は、保健師にしかできません。

今年まとめられた「地区活動のあり方とその推進体制に関する検討会」報告書では、既存のものとは異なる視点から、地区担当と業務担当の重層的な体制が提案されています。

本特集では、保健師の専門性としての「地域をみる」働きを、既存の枠組みを超えた新しい視点から整理してみました。